

「約束の 때가満ちて」

イザヤ書 第9章1節～7節
ルカによる福音書 第2章1節～2節

説教 岡村恒牧師

「ところが、彼らがベツレヘムに滞在している間に、マリヤは月が満ちて、初子を産み、布にくるんで、飼葉おけの中に寝かせた。客間には彼らのいる余地がなかったからである。」(6節～7節) 神のひとり子、主イエス・キリストがお生まれになった時の様子を、聖書は「ところが」という接続詞をもって描きます。

いろいろな計画や予定通りに神のひとり子がお生まれになったというわけではありません。別の場所、別の仕方でお生まれになっても良いはずなのに、ところが、マリヤは月が満ちて初子を産みました。

ローマ帝国の支配が強まっていく中で、人口調査の勅令が出ました。ローマの平和と呼ばれる時代の初め、辺境のユダヤでの出来事です。しばらくの間本籍地のようなベツレヘムに滞在している間に、想定外の場所で主イエスはお生まれになりました。人間が様々な計画を立てる世界で、神の救いの「時」が満ちたのです。

私たちの救い主、主イエス・キリストがお生まれになったこの世界は、救い主をお迎えする余地を残さない世界です。自分自身の生活の中に、私たちは救い主をお入れする場所を作ることさえできないのです。私たちの心の客間はいつでも、何を飲もうか、何を食べようかといった日常の事柄で一杯になっています。神のひとり子は、この世界に、この私たちのただ中に「ところが」、お生まれになったのです。

月が満ちるといふのは、水を注ぎ入れたコップが一杯になって水があふれ出るような言い方です。しかし神の計画が満ちた、といふのは、ただ単に時間が来て、予定通りに何かが起こったというわけではありません。神の激しい熱情が注ぎ入れられ、一気にあふれ出たのです。

ごくわずかに水がこぼれ落ちるのではなく、満ちた途端、ほとばしり出るように神の救いの計画が実現し始めたのです。マリヤへの受胎告知も、ヨセフへのお告げも、羊飼いたちへの天の使いの告知も、人間の理解をはるかに超えた

出来事でした。「ところが」と語り出す他のない、予想外の出来事が連続していきます。人間の立てた計画など吹き飛ばすようにして、神の救いの計画が実現していくのです。私たち一人一人の人生においても、神の救いはあふれ出るように実現します。マリヤのお腹の中に、あの飼葉桶に救い主が到来したように、私たちの人生に、神の救いが到来するのです。今朝、洗礼を受ける1人の兄弟にも、神の 때가満ちて、救いが実現しました。

主イエスによる救いの喜びは、洗礼を受けたその人からあふれ出ていきます。信仰を得て救いに入れられると、「時が満ちる」という言葉の意味を味わい知るようになります。自分自身の救いの時が満ちたということ、この世界全体の為に、神の救いの計画が成就したということが一つのことからです。

幼な子イエスは、布にくるまれて飼葉桶に寝かされました。この布は、死者を埋葬する時に使う長い布だとも言われます。主イエスがやがて十字架の上で死んで、私たちの罪のあがないとなり、布に巻かれて墓に葬られることになることを、クリスマスの物語は指さしています。主イエスは、私たちの罪を赦し、命を与えるためにお生まれ下さった救い主です。

やがて主イエス・キリストは、布を墓に残して復活させられました。そして今も生きておられます。この主イエスが、やがて再び来て下さることを、全世界のキリスト教会は待ち望んでいます。その日、神の救いの計画が完成するからです。神の恵みが満ちるといふことを、全身全霊をもって味う日が来るのです。

救い主の誕生という出来事は、すべての人々に与えられる喜びの知らせでした。誰でも、主イエスを救い主として信じるなら、必ず永遠の命を得ることができるようからです。私たちが期待も想像さえもしない時、「ところが」、あなたのために救いの時が満ち、あなたの救い主がお生まれになりました。

(記 岡村 恒)